

インターンシップ（学外実習）に関する報告書

令和7年度

沼津工業高等専門学校

目次

1. 概要	3
2. 企業アンケート	4
3. 学生アンケート集計	10
4. 令和8年度インターンシップ関連スケジュール(予定)	18
5. インターンシップ実施関係者	18
6. おわりに	19

[1] 概要

企業からの公募数(Moodle 掲載分) :	275 社
企業からの公募数(高専キャリアサポートシステム掲載分) :	718 社
両システム重複企業数 :	145 社
総計 :	848 社

インターンシップ実施のべ人数 :156 名
(M:22 名, E:33 名, D:24 名, S:48 名, C:29 名)
実参加学生数 :137 名 (1 社参加:120 名, 2 社参加:15 名, 3 社参加:2 名)

2025 年夏季休業中に実施した本年度のインターンシップの報告である。
企業からの公募数は、Moodle 掲載分が 275 社、高専キャリアサポートシステム掲載分が 718 社であり、両システムに重複して掲載されている企業は 145 社であったことから、総計 848 社となった。
なお、本年度より求人票の受け入れ口として利用している高専キャリアサポートシステムを新たに導入した。同システムにおける 718 社という数値は、対象年度:2027 年卒、種別:汎用型能力・専門活用型インターンシップ、日程:2025 年度、募集状況:募集中および募集終了、対象学科:M・E・D・S・C 科という条件で抽出されたものである。

例年、企業公募数の経年変化を提示してきたが、今回のシステム変更に伴い継続的な比較としての意味をなさなくなるため、本年度は経年変化の表示を省略する。

インターンシップの実施のべ人数は 156 名(M 科:22 名、E 科:33 名、D 科:24 名、S 科:48 名、C 科:29 名)、実参加学生数は 137 名であった。このうち複数企業のインターンシップを経験した学生は 17 名であり、2 社参加が 15 名、3 社参加が 2 名であった。

[2] 企業アンケート

インターンシップを受け入れた企業に、インターンシップ終了後に以下のアンケートを依頼した。

1. 貴社名をご入力ください。
2. 部署名をご入力ください。
3. ご回答様のお名前をご入力ください。
4. メールアドレスをご入力ください。
5. 電話番号をご入力ください。
6. ご回答者の方は、インターンシップにどのように関わりましたか？
 - 企画事務手続き(人事等)
 - 学生指導(現場・工場・技術・製造等)
 - 上記, 両方
7. 本校から参加した学生は、実習に積極的でしたか？
 - 非常に積極的
 - 積極的
 - 普通
 - 消極的
 - 非常に消極的
8. 本校から参加した学生の能力は高いと感じましたか？
 - 非常に高い
 - 高い
 - 普通
 - 低い
 - 非常に低い
9. 次年度も、本校の学生が希望した場合、受け入れていただけますか？
 - ぜひに
 - 希望があれば
 - 検討したい
 - 難しい
 - 遠慮したい
10. 学校側のインターンシップに対する対応はどう感じますか？
 - 非常に丁寧
 - 満足
 - 普通
 - 不十分
 - 改善を希望
11. インターンシップに企業としてのメリットを感じますか？
 - 大いにある
 - 多少ある
 - 学生による
 - あまりない
 - 全くない
12. 今後、インターンシップに参加する学生へお伝えしたいことがございましたらご入力ください。

13. インターンシップ実施に関して、ご要望・ご質問がございましたらご入力ください。
 14. その他、何かございましたらご自由にご入力ください。

このアンケートに対し、合計 71 社より回答があった。以下に、4 年分の比較データとしてまとめた。
 インターンシップへの関わり

	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度
企画事務手続き(人事等)	57	58	58	66
学生指導 (現場・工場・技術・製造等)	4	15	11	25
上記、両方	39	27	31	8

本年度は「企画・事務手続き」が 66%、「学生指導」が 25%とそれぞれ増加した一方、「両方」が前年度の 31%から 8%へと大幅に減少した。回答者の担当役割が明確に分化してきていることが読み取れる。現場指導者と人事担当者が別々に回答するケースが増えている可能性があり、今後はアンケートの回答者属性を把握することで、より精度の高い分析が可能となる。

学生の積極性

	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度
非常に積極的	66	64	60	58
積極的	27	32	35	38
普通	5	3	5	3
消極的	2	1	0	1

非常に積極的」と「積極的」の合計は 96%と、4 年間を通じて高水準を維持している。「非常に積極的」の割合は 66%から 58%へと緩やかな減少傾向にあるが、「積極的」が増加しており、評価の重心が上位から中上位へとシフトしていると解釈できる。「消極的」の回答は依然として極めて少なく、学生の姿勢に関しては概ね良好な評価が継続している。

学生の能力

	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度
非常に高い	54	49	48	49
高い	36	47	48	48
普通	11	4	5	3

「非常に高い」と「高い」の合計は 97%に達しており、4 年間を通じて安定した高評価が得られている。特に「普通」の割合が 2022 年度の 11%から 3%まで低下しており、学生の技術力・基礎能力に対する企業側の評価は着実に向上している。

次年度の受け入れ

	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度
ぜひに	89	89	90	89
希望があれば	9	11	9	7
検討したい	2	0	1	4

「ぜひに」の割合は 4 年間を通じて 89～90%で安定しており、受け入れ企業の継続的な協力意欲の高さが示されている。一方、「検討したい」が本年度は 4%に増加した点は注視が必要である。該当企業に対して個別のフォローアップを行い、懸念事項を早期に把握することが望ましい。

沼津高専の対応

	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度
非常に満足	59	57	55	68
満足	38	35	31	24
普通	4	8	13	6
不十分	0	0	1	3

本年度の最も顕著な改善点である。「非常に満足」が前年度の 55%から 68%へと 13 ポイント回復した。インターンシップのエントリー方法を、事前の打ち合わせにより事務負担を増やさず教員にとってわかりやすい方法に改善したことが主な要因と考えられ、次年度も同様の方法を継続する予定である。一方、「不十分」の回答が 1%から 3%へと増加しており、件数は少ないながらも具体的な不満内容の把握に努めることが求められる。

企業のメリット

	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度
大いにある	86	86	79	82
多少ある	11	7	14	7
学生による	4	7	6	10
あまりない	0	0	1	1

「大いにある」が前年度の 79%から 82%に回復し、「多少ある」との合計は 89%となっている。一方、「学生による」の割合が 6%から 10%に増加しており、学生間の能力・意欲のばらつきが企業側に意識されてきている可能性がある。受け入れ前のマッチング精度の向上や、学生への事前指導の充実を検討する余地がある。

総括

本年度のアンケート結果は、71 社の回答をもとに 4 年間の推移を比較したものであり、全体として良好な評価が維持されている。特に沼津高専の対応に対する満足度の大幅な回復が本年度の特筆すべき成果であり、エントリー方法の改善という具体的な取り組みが評価に直結した好事例といえる。学

生の積極性・能力・受け入れ意向のいずれも高水準を維持しており、インターンシップ制度全体の信頼性が企業から継続的に認められていることが確認できた。次年度に向けては、「不十分」評価の増加要因の把握、「学生による」メリット評価への対応、「検討したい」企業へのフォローアップを重点課題として取り組むことが望まれる。

企業アンケートの自由記述欄の抜粋

1. 今後、参加する学生へ事前に必要な指導等

- 学校への提出書類がある場合は、学生さんからも初日に人事に提出するように。
- 目的意識を持って参加を。
- 事前に学生様へお伝えする事ではございませんが、ご参加いただく学生の皆様にとって有意義な時間となるよう努めてまいりますので、来年度以降もよろしく願いいたします。
- メモ帳は言われなくても持参する等、学びに来るという姿勢をより持つ
- 社会人としてのエチケット(服装、香水、ピアスなど)についての指導を。
- 自己紹介等、一定のプレゼンテーション能力。
- 積極的な質問等を。
- 興味・関心をもつての参加を。
- メール等の連絡手段を定期的を確認し、迅速に対応。
- 指示以外のことに取り組む際は、自分だけで判断せず、一度確認してから進める。
- 重要書類の印鑑を逆さに押したり、提出書類をインクで汚していたので、指導を。

2. インターンシップ実施に関して、ご要望・ご質問に対する回答

・ インターンシップの募集要項や開催についてのご案内は、学生の目にとまりやすく、また選択肢として検討されやすい時期は、いつ頃になりますでしょうか。

本校では、4月からインターンシップ先を探すよう学生に指導しております。早すぎず遅すぎないという観点から、5～6月頃が最も効果的な時期ではないかと考えております。

・ インターンシップの説明会のような機会が「無料」であればありがたい(学生さんとのマッチングにおいて齟齬が出にくい)と思います。(地域創生交流会等の会員特典？にしても良いかもしれませんね。)

貴重なご提案をいただきありがとうございます。現時点では、無料でのインターンシップ説明会の実施は予定しておりませんが、今後の参考とさせていただきます。

・ 生徒さんの進路希望が就職なのか進学なのか事前に把握できた方が企画がスムーズになるのではないかと感じました。

ご指摘はごもっともと存じます。ただ、4年次の前期においては進路が未定の学生も多く、インターンシップへの参加を通じて進路を決定する学生もおります。把握が難しい面もございますが、できる限り対応できるよう検討してまいります。

・ 私たちも継続的に情報をチェックして参りますが、来年度の募集開始タイミング等にご連絡いただけますと大変ありがたく思います。

応募開始時期については特に設定しておらず、4月上旬より学生が随時情報にアクセスできる環境を整えております。情報の周知方法については、引き続き改善を検討してまいります。

・ 申込に際し、指導教員様から問い合わせがあり参加希望者がいると聞いたが、その方からは結局応募がなかったため、今年の参加希望者は居ないものと思っていたが、1か月前に突然書状が届き希望する別の学生の履歴書が届きました。次回からは、申し込み締め切りをもっと早く設定いたしますが、インターンシッププログラムを検討するためには、それなりの準備と時間が必要となるため、今後は希望者が出てきた場合、早々にお電話をいただけたら大変ありがたく存じます。また、これまで受け入れてきた学生は口々に、単位が必要なので……というので、学業が大変なのは理解いたしますが、当社や同業界での就職を考えているなどの明確な目的を持ったうえで参加されたほうがお互いにとって有意義なインターンシップになると考えました。

この度はご負担をおかけし、誠に申し訳ございませんでした。ご指摘の点を真摯に受け止め、今後は希望者が出た際に速やかにご連絡できるよう、学内での連絡体制を整えてまいります。また、明確な目的意識を持った上でインターンシップに臨むよう、学生への指導を徹底いたします。

・ 募集要項の応募条件欄に『同一サービスセンターで同時に複数人の受入は難しい為、上記実習期間の受入人数は合計4名を目安とさせていただきます。』と記載しましたが、各学科毎にご応募があったため合計7名となりました。可能であれば来年度より学生課にて人数調整いただけると助かります。

規定の人数を超過してしまい、ご迷惑をおかけしましたことを深くお詫び申し上げます。来年度以降は、ご指定の受入人数を遵守できるよう、学生課にて適切な人数調整を行う体制を整えてまいります。

・今回インターンシップを実施した大分実験部はインターンシップ受入れの数が少なく、実施内容とご本人の思っている内容や要望がマッチしていたかが不安でした。学生さんや貴校のご意見・ご要望を織り込めたら、より学生さんにも有意義なものにしていけると考えます。

貴重なご意見をいただきありがとうございます。学生がより充実したインターンシップを経験できるよう、今後ご意見・ご要望を積極的にお寄せいただければ幸いです。いただいたご意見は、プログラムの改善に活かしてまいります。

・インターンシップ証明書の運用を可能であれば統一いただきたい。今回、2名参加され、1名は郵送、1名はメールにて帳票展開がありましたので、可能であれば、メールにて統一いただけると大変ありがたいです。

ご不便をおかけし、申し訳ございませんでした。証明書の送付方法については、メール送付への一本化を含め、前向きに検討してまいります。

[3] 学生アンケート

125名の学生から回答を得た。実習期間は5日間で87.2%と大半を占めたが、4日間で実施した企業も一部見受けられた。

満足度については「非常に有意義だった」が81.6%、「概ね有意義だった」が17.6%と、全体の99.2%が肯定的な評価を示しており、推薦度(10段階)でも8点以上の高評価が約85%を占めた。また、「能力が向上した」88.0%、「就労体験となった」91.2%と、インターンシップの目的は概ね達成されていると言える。

一方で、参加目的として「単位のため」と回答した学生が47.2%にのぼっており、「就労体験として」(76.0%)や「適性を探すため」(61.6%)と回答した学生との間に、取り組み姿勢の差が生じやすい構造が数字からも見て取れる。企業アンケートの結果と照らし合わせると、この意識の差が企業評価の格差につながっている可能性が高い。事前指導においては、インターンシップの意義や社会人としての心構えを改めて伝えるとともに、「単位取得」以上の目的意識を持って臨むよう促すことが重要である。

自由記述項目からは、実習に必要な書類や手続きへの理解不足、学科(助言教員)ごとに対応が異なることへの戸惑いが複数挙げられていた。助言教員との密な連絡を前提としつつも、学生自身が主体的に情報を確認し行動できるよう、事前指導の充実を図ることが求められる。

1. 参加者の属性

■ あなたのクラスは？

- S4: 29.6% E4: 22.4% C4: 21.6% M4: 14.4% D4: 12.0%

■ あなたの性別は？

- 男: 76.8% 女: 23.2%

2. 実習の概要

■ 日数は？

- 5日: 87.2%
- 4日: 4.8%
- 10日: 4.8%
- 7日: 1.6%
- 6日: 0.8%
- 12日: 0.8%

■ 実施内容は？(複数回答可)

- 研修: 86.4% 見学: 80.8% 実技: 60.0%

■ 研修・実技の詳細内容(複数回答可)

- 講義・グループワーク: 68.8%
- 実験・シミュレーション: 41.6%
- 設計・開発: 36.8%
- 測定・計測・分析・解析: 30.4%
- 保守・点検: 20.8%
- 検査: 20.0%
- 組立・加工・製造: 17.6%
- その他: 6.4%

■ 実際に実習を行った場所は？(複数回答可)

- 教育施設・会議室: 62.4%
- 工場: 45.6%
- 実験室・研究室: 27.2%
- その他: 21.6%
- 品質管理室: 8.0%
- 検査室: 8.0%
- 加工室: 4.0%
- 全日遠隔で実施: 3.2%
- 一部遠隔で実施: 1.6%

3. 宿泊・通勤関連

■ 宿泊した施設は？

- ホテル(実習先の紹介): 60.0%
- 自宅: 24.8%
- ホテル(自分で手配): 8.8%
- 社員寮: 4.0%
- 親類宅: 1.6%
- 下宿: 0.8%

■ 通勤方法は？(複数回答可)

- 徒歩: 52.8%
- 電車: 46.4%
- バス: 37.6%
- なし: 6.4%
- 自転車: 2.4%

■ 片道の通勤時間は？

- 30分以内: 62.4%
- 60分以内: 20.8%
- 90分以内: 9.6%
- なし: 4.0%
- それ以上: 3.2%

4. 実習の動機と事前・事後学習

■ インターンシップに参加した目的は？(複数回答可)

- 就労体験として: 76.0%
- 適性を探するため: 61.6%
- 単位のため: 47.2%
- 能力向上のため: 37.6%
- その他: 4.0%

■ もっとやるべきだったと考える事前研修は？(複数回答可)

- ビジネスマナーについて: 36.8%
- 報告書の書き方、プレゼンの仕方: 28.0%
- 受入先に関する研究: 28.0%
- 不要: 17.6%
- 技能について: 17.6%
- インターンシップで身に付けるべき能力・姿勢について: 16.8%
- 安全性、知的財産について: 3.2%
- その他: 1.6%

■ 実習最終日の報告は？(複数回答可)

- プレゼン: 63.2%
- 報告書: 24.8%
- 特になし: 16.8%
- 面談: 12.8%

5. 成果の自己評価と満足度

■ 自分の能力が向上した？

- はい: 88.0%
- どちらとも言えない: 11.2%
- いいえ: 0.8%

■ 就労体験となった？

- はい: 91.2%
- どちらとも言えない: 5.6%
- いいえ: 3.2%

■ 自らの適性がわかった？

- はい: 66.4%
- どちらとも言えない: 32.8%
- いいえ: 0.8%

■ 満足度はどうでしたか？

- 非常に有意義だった: 81.6%
- 概ね有意義だった: 17.6%
- あまり意義がなかった: 0.8%

■ 経験したインターンシップのお勧め度は？ (10段階評価)

- 10点: 43.9%
- 9点: 21.1%
- 8点: 20.3%
- 7点: 8.1%
- 5点: 4.9%
- 6点: 0.8%
- 4点: 0.8%

6. 進路とインターン先の選定理由

■ インターンシップ参加前と参加後の進路の変化は？

- 就職 → 就職: 38.4%
- 進学 → 進学: 27.2%
- 未定 → 就職: 15.2%
- 未定 → 未定: 7.2%
- 進学 → 就職: 4.0%
- 未定 → 進学: 3.2%
- 進学 → 未定: 2.4%
- 就職 → 未定: 1.6%
- 就職 → 進学: 0.8%

■ インターンシップ先を選ぶ決め手となったのは？

- | | |
|--------------------------------|-------|
| • 業種: | 36.8% |
| • 職種: | 16.8% |
| • ネームバリュー: | 11.2% |
| • その他: | 11.2% |
| • 3年次 12月のインターンシップ企業説明会@キラメッセ: | 8.0% |
| • 県内: | 7.2% |
| • 県外: | 4.8% |
| • インターンシップと就職の関係性: | 4.0% |

学生自由記述項目

=====

■ 研修中に困ったことを入力。

2. 最終日が台風で帰りの新幹線が遅れたこと
3. ビジネスマナーや言葉遣い
5. 研修先であった人とのコミュニケーション
6. 実習報告書の所感を生徒が書くべきなのか企業側が書くべきなのか分からなかった。
明記してほしい
7. パンプスに履き慣れておらず、靴擦れをしてしまった。
10. パワポ作れない
11. 機械科に入って後悔した
12. 敬語や名刺の受け取り方などのビジネスマナー
13. 社員の方と話をする際の言葉遣いなどビジネスマナー
14. 最終日は若干手持ち無沙汰だった。
15. 下宿先が少し古い施設ということもあり、匂いが気になったり、
ベットが固く寝ずらかったりしたこと。
16. バスを乗り間違えてしまい遅刻するかと思いました
17. 交通費が支給されなかったこと
18. 体調が悪くなった学生がいたため最終日の終了時間が短くなったこと。
19. コードを理解するのに長時間をかけ、研究室の先輩達に聞かないと1日の
課題が終われない。
21. グループワークにて専門知識についての話でついていけなかったこと。
22. メモが必要な箇所が分からなかった。
23. 人とあまり話せなかった
26. 全く知らないこともやるときにグループの人に頼っていた
28. 沼津駅から事業所まで歩かなきゃいけないから大変
29. 初日の自己紹介を考えておけば良かった。
30. 現地の天気予報を見忘れて傘を忘れたこと。
31. 性格の合わない子がいた
33. 学校に提出する必要がある書類を moodle で確認したが少し分かりにくかった。

34. 企業が昼食代を出してくれたのにも関わらず、
企業の人が昼食代を出してくれた時の対応に困った。
 35. インターンシップ生が一人のため非常に気まずい時間があった。
 36. 研修中に一人で作業をする時間が少し多かった。
-

■ 学校への意見、要望、現在の気持ちなど自由に入力。

1. 参加して良かったと思っている
2. とても有意義なインターンシップだった。
4. とても良い経験になったと思う。
6. プログラミングを設計から学びたい。今思い返せば、変数・関数の使い方や制御構造、その言語の特性を暗記していただけで、それらがどう役に立てれるのか考えたことがなかった。
オブジェクト指向についても言葉を覚えてただけで、実際インターンに参加してみて勉強の仕方が少しずれていたと感じた。おそらく今私が思い浮かべていること以外にも学ぶべきことが山ほどある。この状態でもう一度2,3年のプログラミングの授業を受け直したらまた新しい学びを得られそうだと思う。処理が重くならないようにとか、見やすいコードとか、チーム開発でコンフリクトが起こりづらいような設計の仕方とか、実践で使わないと意識しないようなことをもっと詳しく学びたかったなど感じた。ただ、それは私が意識できていなかっただけで、それを知っている人にとっては多分今までの授業がもっと深い学びに繋がっていた気がするので自分で頑張ってみようと思う。授業の合間にこれがどう実践で役立つか、どこを意識してコードを書くべきかをもっと話してくれたら嬉しいなど感じた（言ってくれていたけど気づけなかっただけな気がする、そんな重要な事じゃなさそうだと勝手に決めつけてしまった）。
7. 担任のメールの返信が遅い
8. もっと工場見学を増やしてほしい。
また、工場以外にも高専生を採用している会社があれば色々見学・訪問できたらいいと思う。
9. 高専という閉鎖空間に居たため、自分が対外へ目を向ける機会を設けなかったため、この年になってインターンシップや学校見学へ訪れた際に、高専がいかに実学を重視した教育かを理解できた気がする。実技が重視されているもののその原理を理解するには十分な教養も得られるようにカリキュラムが組まれているため、高専への好感度が変化した。
11. 公務関係のインターンシップを少し増やしてほしいと思いました。
インターンシップ関係で様々なことをアドバイスや用意してもらいありがとうございました。
13. 現在の気持ちとして、より一層進学をしたいと考えるようになった。
14. 会社では印鑑を廃止していたので、報告書押印の際に手間をかけてしまった。
印鑑不要の報告書のフォーマットがあるといいと思った。
15. 今後も色んなインターンシップに参加してみたい。
16. このような機会をくださりありがとうございます。
インターンシップでは今後の進路を考えるととても有意義な時間を過ごすことが

できました。ありがとうございました。

17. 自分自身ではインターンシップに参加するまで至らなかったと思うので、学校全体でこのようなイベントを行ったことが参加のきっかけとなったため非常に助かりました。
18. 推薦書を自分で書く理由がよくわからなかった。
19. オンラインインターンは、人によりけりといった感じで、合う合わないがとても激しい気がした。
20. 今回のインターンシップで、具体的に働くイメージができ、非常に有意義な経験になった。
21. インターンの報告(1日目終了しました等)の教員への報告が各科ごとバラバラだったので、統一してほしいかった。インターン実習修了証明書の説明がなかったので、説明してほしいかった。

=====

■ 受入機関への意見、要望、現在の気持ちなど自由に入力。

2. とても丁寧に対応してくださり安心してインターンシップを終えられた。
3. 貴重な体験をさせていただいたことに感謝しています。
4. とても貴重な経験となって、行ってよかったと思った。
5. とても良い待遇で満足のいくインターンにすることができました。
ありがとうございます。
6. とても良い経験になりました。インターンシップでの経験が自分自身の自信につながりました。また将来のキャリアプランのヒントにもなりました。
7. もう少し事前に何をやるか教えて欲しかった
8. 私をインターンに受け入れて下さり本当にありがとうございました。
インターン生は全員想像以上に優秀な方々で、とても良い刺激をいただきました。ゲーム開発も非常に楽しく、多くの学びを得ることが出来ました。お客様扱いではなくエンジニアとして意識すべきことや大切にすべきことを教えていただけてとても嬉しかったです。ゲーム業界のエンジニアとして働きたいという意志が強くなりました。今私がやるべきことを明確に知ることが出来たので、本当に感謝しています。御社のエンジニアの方々のように仕事にこだわりを持って、より最高のコンテンツを作り上げられるような優秀な人になれるよう全力で努力します。
9. とても良い経験になった
10. しっかり学ぶことができたり就職に関しても聞けることが出来たのでよかった
11. グループワークの難易度が適切でインターンシップを通して学んだことを生かしながら時間内に資料を作り終え、プレゼンテーションに臨むことができた。このグループワークを通して自分の弱点や強みを知って、改善点や改善方法も知ることができて自分の成長につながったと感じた。
12. とてもたのしかった。
13. インターンシップの受け入れテーマに書かれていたことがあまり実施されなかったなので、もう少し専門的なことをやってみたかった。
14. 良い経験となり、今後の進路への一つの考え方が変わりました。
ありがとうございました。

15. インターンシップとても有意義に過ごすことができました。
16. とてもいいインターンシップをありがとうございました。
18. 大学は位置が悪いです。片道のバスで 430 円もかかった。しかし、グループワークで他高専の友人を知り、就職/進学に関する情報の話が面白かった。
研究室の先輩、先生方もとても優しく緊張しなかった。
19. インターンシップを通じて、業務内容や警察官について理解を深めることができ、いくつか気になる職種を見つけることができました。
2 日目の自宅搜索を想定して証拠品を探す体験について、何処に隠れているか考える事ができ、楽しかったですが、出来れば全員が参加できるようにしてもらえたら良いなと思いました。
貴重な体験をさせていただきありがとうございました。
21. 普段、知らない分野や工場での仕事を見ることができ貴重な体験となった。
22. インターンシップに参加させていただいたことに感謝しています。
23. 始めは何となくで応募したインターンシップだったが、本インターンシップを通して貴社への就職を考えるくらいには行ってよかったと感じた
24. インターンシップでとても親しく受け入れてくださりありがとうございました。
25. 募集がかかったら、是非申し込みたいです。
26. この度はお忙しい中私をインターンシップに受け入れてくださり、本当にありがとうございました。普段手に取る鉄道模型が実に多くのことを考えられて作られていることに感動し、詳しい工程を教えていただき、現場で働く方々と接することや各工程の体験もすることができて大変有意義な時間を過ごすことができました。今後の進路を考える良い経験になりました。
改めて心よりお礼申し上げます。
27. 今回のインターンシップでは非常に多くのことを学ばせて頂きました。
本当にありがとうございました。
28. 受け入れてくださり本当に感謝しています。わからないことがあったらすぐに答えてくれるし、積極的に話しかけてくれたおかげで、過度に緊張せず自然な状態でインターンシップに臨むことができました。
29. とても貴重な体験ができ、楽しむことができた。
30. 実仕事内容が詳しくわかるインターンシップに参加させていただき感謝の気持ちです。
31. 就職先として考えている。
32. 医療機器の整備やメンテナンスは資格がないとできないため、行わせてもらうことはできなかったが、各整備の意味などを詳しく説明してくれたので、飽きずに実習を行うことができた。交通費やホテル代も出して助かった。

[4] 令和8年度インターンシップ関連スケジュール(予定)

- 4/7(火) :インターンシップ公募情報の学生への公開開始
- 4月～7月 :インターンシップ行先の検討・応募
- 8/9(月)～9/11(金):インターンシップの実施※
- 10月 :インターンシップ報告書提出・報告会・事後アンケート(企業・学生)
- 12月 :インターンシップ企業説明会(マッチング会) (地域創生交流会主催)

[5] インターンシップ実施関係者

キャリア支援室長		大川 政志
機械工学科	4年助言教員	前田 篤志
電気電子工学科	4年助言教員	高矢 昌紀
電子制御工学科	4年助言教員	小谷 進
制御情報工学科	4年助言教員	横山 直幸
物質工学科	4年助言教員	伊藤 拓哉
学生主事		佐藤 誠
学生係		山口 正志

[6] おわりに

本年度よりキャリア支援室長を拝命し、インターンシップ業務に携わるなかで、多くの企業がインターンシップの位置付けを変えつつあることを実感した。それに伴い、以前とは異なる問い合わせが増えてきている。その一例として、インターンシップの受け入れにあたり、成績証明書の提出を求める企業があったことが特に印象に残っている。その理由を確認したところ、「学生がどのような科目を受講してきたかを把握したい」とのことであった。授業内容の確認であればシラバスで対応可能と判断し、担当教員にその旨をお伝えしたところ、シラバスによる対応をとっていただくことができた。

また、企業アンケートの結果からも明らかなように、インターンシップへの参加が単位取得を目的としている学生に対しては、企業側の評価は芳しくない。明確な目的意識や興味を持って臨む学生との間に格差が生じており、学生の二極化が進んでいるように感じる。事前指導においてこの点を取り上げ、インターンシップの意義や社会人としての心構えを改めて伝えることで、学生全体の意識向上を図ることが必要であると考えます。

今年度から、全高専生を対象とした就職・インターンシップ情報ポータルサイトである高専プラスに加え、本校学生向けの求人システムである高専キャリアサポートシステムを通じた企業への応募も開始した。これまで本校への直接応募企業数は約 180 社であったが、高専キャリアサポートシステムには 718 社のインターンシップ受け入れ企業が登録されており、両システムの重複企業は 145 社にとどまる。すなわち、高専キャリアサポートシステムを活用することで、これまでアプローチできていなかった約 573 社への働きかけが新たに可能となる。システムを運営するメディア総研とも情報交換を行い、インターンシップ関連ページについてはアプリの改良余地があるとの認識を共有した。事務的な業務負担の軽減という観点からも、将来的には本校のインターンシップにおける企業応募や学生への情報提供を、高専キャリアサポートシステムに一本化していくことが望ましいと考える。

令和8年3月
沼津工業高等専門学校
キャリア支援室長
大川 政志